

## 教育実習を終えて

日本語日本文学科 4 回生

井上真衣

不安と緊張から始まった教育実習でしたが、母校での3週間はあっという間で、充実した日々でした。

私は中学3年生の国語科を担当させて頂きました。1週目は主に授業を見学したり、補助に入らせて頂いたりしました。私たちにとっては予測し難い生徒の反応や質問ですが、先生方は非常に柔軟に対応しておられて尊敬しました。授業以外にも学ぶことは多くあり、毎日が勉強の連続でした。また、1週目は特に生徒との関係づくりに努めました。自分の受け持つクラスだけでなく、授業を行うのは学年全体なので、学年全員の顔と名前を早く覚え、積極的に生徒の中に入っていきよう意識しました。朝のホームルーム前や、昼休みは教室で生徒たちの様子を観察し、クラスの雰囲気や早くつかめるように工夫しました。実習4日目からは、生活ノートを点検させて頂き、生徒との関係を少しずつ築くことができたかと思います。また、教師として実習をしている私の些細な行動でも生徒は見ており、教師の表情一つにも敏感に反応するので、常に生徒たちに示しがつく生活を心がけました。

2週目以降は、生徒との距離が近づき、忙しさにも慣れてきました。生徒と近くなった分、言葉づかいや接し方に気を配らなければならないと校長先生に教えて頂きました。「生徒と一線を画する」という大切さを教えて頂き、改めて自分の立場を自覚しました。これまで生徒であった自分が、初めて教える立場に立ち、中学3年生の生徒にとって一度きりの授業をさせて頂くことに、強い責任を感じました。これまで大学で行った模擬授業とは全く違う雰囲気と緊張感に初めは戸惑い、思うような授業が全できませんでした。1週目に、生徒の興味はどこにあるのか、どうしたら全員が参加できる授業になるかなどの細かい先生方の授業の技や工夫を見ておいたはずであるのに、いざ自分が教壇に立つと上手く実践できませんでした。指導教諭の先生に「準備が大切だ」と教えて頂いたので指導案は早めに出すよう、2コマ先の分を先生に見て頂いていましたが、準備というのはいくら行っても足りないと感じました。

私は評論文「メディアを学ぶ」「テレビ映像の本質」という2つの単元を5コマに分けて全部で15コマ授業をさせて頂きました。私は授業が終わる度に先生の所へ伺い、ご指導を頂きました。先生のおっしゃることは本当に的確で、学ぶことがたくさんありました。先生はいつもおっしゃりたい事はまだまだあるはずなのに、私がかつと次の課題を越えて成長できるよう、少しずつ改善点を挙げて下さったので、前の授業の反省をもとに授業を組み立て直すことができました。

最後の研究授業は、私が担当したクラスでさせて頂くことができました。生徒に助けられた部分もたくさんあり、録画したニュース映像をプロジェクターで映し出す試みは、生徒にも先生方にも興味を持って頂けました。実習中、本当に上手く行ったと思える授業はありませんでした。クラス全体に教えるという意識が強く、生徒一人一人に眼を向けることができなかつたことが一番の反省点だったと感じています。どれほど指導計画を立てても、生徒が授業の主役で、生徒によって授業が作られていくのだと身を持って感じました。

この三週間で、多くの方々に支えて頂き、教師の魅力を強く感じました。それと同時に、自分の未熟さがよく分かりました。しかし、教師が本気で関われば、その分生徒から素直に返ってくるものだと学ぶことができました。恵まれた環境の中で教育実習をさせて頂くことができ、感謝の気持ちで一杯です。先生にとっても、生徒にとっても貴重な時間を頂き、教育実習は私にとって忘れられない密度の濃い3週間となりました。今後もこの経験を活かし、日々成長できるよう努めたいです。

## 教育実習を終えて

英語英米文学科 4回生

若林 ゆい

私は、3週間母校ではなく他の中学校で教育実習をさせて頂きました。母校ではないので、下見は念入りに行い、教育実習に望みました。

実習前に指導案の形をある程度作り、英語の発音を復習したり、教材を作り、板書計画をしたり、毎日欠かさず新聞を読んでHRで話すネタを考え、教育実習前にすることは多々ありました。これでいいだろうでは生徒には通用しません。ちょっとしたことで反応し、指摘します。

私は中学1年生を担当し、初めて「英語」というものに触れる生徒がほとんどだった為私の授業で英語が嫌いにならないかすごく不安でした。それだけ自分の授業に「責任」を持たなくてはいけなかったのでプレッシャーに押しつぶされそうになりました。そんな中、校長先生に挫折感、敗北感を味わったことはあるか聞かれました。生徒が英語を嫌いということはそういう気持ちを抱いてしまっているからである。その気持ちが分からないと、生徒は英語を好きにはならないと言われました。苦手に思っている生徒に向かって授業をすればいいと、アドバイスを頂きました。確かに、私は、30人全員が分かる授業を目標にしていたのですが、そうやって苦手な生徒に視野を当てて、その生徒が分かる授業をすればいいと言って頂き、私の不安は少し軽くなりました。

始めは、クラス全員分の名前を覚えました。一日一回はクラス全員の生徒と話すようにしていました。自分が毎日できる目標を抽象的ではなく、明確に持つておくことが大切だと感じました。

そして一日の流れとしては、朝の挨拶運動に参加し、HRを行い、各学年の英語の先生の授業と他科目の授業の見学をし、時間があれば、生活日誌を見て、授業が終わればSHRを行い、清掃活動が終了すれば次は、下校指導をして、担当教科の先生と打ち合わせを行い、それが終われば日誌を書き、そこから自分の教材の準備に取り掛かるという毎日を過ごしました。毎日慌しかったですが、生徒と触れ合う時間は絶対大事だと思うので生徒優先で過ごしました。

私が教育実習で一番学んだことは「声」です。どの生徒にも、私の言葉が伝わるように、大きな声で表情豊かに話すことを心掛けました。大きな声を出すことで、生徒は、その勢いに吸い込まれるように私を見てくれます。話しかけ、訴える私を、一生懸命、受け止めようとしてくれる生徒がいて、私のつたない授業を、盛り立ててくれるのです。生徒に負けない「声」を出すには人数分の「生命力」が必要です。どの場面にも、教師の生命力がなければ、乗り越えることはできません。「声」の力でそれぞれの魂に訴えられるような、力が必要なことを実感しました。

子どもが大好きで、子どもと共に成長でき、子どもの可能性を信じ、感動をともにできる教師という仕事に大変魅力を感じます。無限の可能性を持っている生徒にどこまでも献身し、奉仕する強靱な意志と情熱が必要だと感じます。

## 教育実習を終えて

史学科 4回生

三 嶋 祐貴子

3週間の教育実習を通じて、生徒との関わり方、授業をするときに考えるべきこと、先生の授業や生徒指導に対する着眼点など多くのことを学ぶことができ、実習後ますます教師になりたいと感じた。

生徒との関わりの方は、主にホームルーム、授業、掃除の時間が多かった。初めのころは、生徒との会話の内容に悩み、すぐに話しかけることができなかった。SHRの連絡後に余談をし、自分から話しかけに行くと、結構反応が返ってきたので、主体的に生徒と接する姿勢が大切だと思った。実習前は、クラスの生徒全員の名前を覚えるのは3週間もあれば大丈夫と思っていたが、授業だけでは、生徒の顔と名前を一致させるのが難しかった。そのため、先生にクラス写真と名簿を借りて、名前を覚える努力をすることが大切だと思った。

掃除時間では、男子生徒の方がきちんと掃除をしていて、とても驚いた。ただ、怠けている生徒に対して、どの程度きつく注意をしていいのかがわからなかったため、あまりきちんとした指導ができなかったことが残念だった。放課後に3年生の生徒に世界史を教える機会があり、2時間位世界史を教えた。1対1だと、生徒の反応がよくわかるので、やっているととても楽しかった。次の日に、その生徒が世界史のテスト勉強がわかりやすくなったと言ってくれたときは、教師という職にとってもやりがいを感じた。

授業では、担当の先生に「生徒が疑問に思うことを解決するように説明することが重要」と言われたことが印象的だった。また、板書は生徒が後から見て見やすいようにすること、授業を聞きながらでもノートを取りやすい板書にすることなど、生徒が理解しやすいように工夫することがとても大切だと思った。発問では、何を理解させたいのかという意図を明確にしたものを考えなければいけないのに、それができていなかったのもっと発問の意義を考えなければいけないと思った。

研究授業では、見に来ていただいた先生によって、改善点や疑問点などが違いとても参考になった。「授業を通じて生徒に何を理解させ、どう理解してほしいのか。」と先生に問われた時、私は生徒に理解させるということだけを考えていて、その先を考えていなかったことに気付いた。そのため、この問題をきちんと考えていくことが、今後の課題だと思った。

実習の3週間はとても短い期間だったと思う。高校では、生徒と触れ合える時間も限られているので、自分の積極性が大切だと思った。また、生徒に対する授業をどのように考えるかなど、多くの貴重な体験ができた。この実習で得たものを、今後教師を目指す上で、活かしていきたい。

## 教育実習を終えて

神戸国際教養学科 4回生

森 本 なつき

私は母校ではなくスクールサポーターでお世話になった中学校での教育実習を行いました。初めは何事もうまくいかないかもしれないけど、今の自分のできることは精一杯やろうと心に決めて実習に臨みました。実習の初日、全校集会で生徒の前に立った時、これから三週間がどのようなことになるのかという不安が楽しみな気持ちよりも大きかったのを覚えています。

私が教育実習で最も力を入れたのはやはり授業実習でした。大学の授業で模擬授業は何回か行いましたが、実際に生徒に対して授業を行うのは初めてでした。初めは、緊張から声が後ろの席まで届いているかも不安だったし、自分の授業が生徒に伝わっているか分かりませんでした。毎回の授業実習のあとに必ず担当の先生と反省会を行いできなかつたところは少しずつでも改善し、さらに大学で学んだことから何か工夫できないかと常に探しながら授業を繰り返していきました。事前に準備した授業材料を使って行った授業で生徒から良い反応が返ってきて、終わってから面白かったという感想をもらった時は本当に嬉しかったです。

私のクラスの担当は2年生でしたが、教科の授業では1年生と2年生の二学年を担当しました。現在の中学1年生は、小学校で英語の授業を受けてきているので簡単な classroom English は聞き取れる生徒が多かったです。しかし、説明に必死になっているとつい日本語ばかりになってしまっていたことを指摘されました。大学の模擬授業でも classroom English を使うことは意識していましたが、実際の授業になると思うように使うことが難しかったです。実習に入る前から指導案をしっかりと考え授業を行うシミュレーションをしておくことが大切だと思いました。2年生は中だるみの時期でもあるので、いかに自分の授業に興味を向けるかを考えました。時には授業に集中させるために厳しく生徒に向き合ったこともありました。クラスによっても授業に対する姿勢や反応も違っていたので毎回改善点がたくさん見つかる授業実習でした。

授業以外では、できるだけ長く生徒と関わるのが大切だと思います。朝、校門に立って登校してくる生徒に挨拶をし、昼休みも担当クラスの生徒と過ごし、放課後は部活動に参加させてもらい一緒に活動しました。三週間、過ぎてみればあっという間で、実際に子どもと関わる事ができた貴重な経験でした。この経験では決して大学などで学ぶことのできないことを得ることができたので、これを糧にこれからもがんばりたいと思います。



## 教育実習を終えて

教育学科 3回生

赤松 万裕

「神出小学校のみなさん、おはようございます！」期待と不安を抱きながら朝会台に立った初日。とにかく「笑顔、笑顔！」「明るく、明るく！」と自分に言い聞かせていたのを覚えています。

私は、一人ひとりの子どもと向き合える、信頼される教師を目指しているので、話を聞く時も、授業中の発表も、できるだけ一人ひとりの意見を尊重し、目線を合わせたり、きちんと耳を傾けたりすることを心がけました。そして、どんな時も笑顔を絶やさず、子どもたちが安心して私に近寄ってこられるように意識しました。すると、初日から子どもたちが私の周りに集まってきてくれて、たくさんお話を聞かせてくれたり、「遊ぼう！」と声をかけてくれたりしました。子どもたちに笑顔で接すると、その何十倍もの笑顔、元気、明るさで返してくれて、毎日、毎時間の繰り返しで、日に日に子どもたちとのコミュニケーションがうまくいき、少しずつ信頼関係が築かれていくのを感じることができました。

教育実習で私が1番不安に思っていたのは、やはり授業です。大学で模擬授業を数回しただけで、実際に小学生の前で教壇に立つのは初めてだったので、自分に務まるかどうかとても心配でした。しかし、「子どもたちの前で教師の不安な顔を見せては、子どもたちもきっと不安に感じてしまう」と思ったのと、担任の先生が「先生も楽しんでください。それが1番です。子どもたちは協力してくれるから、大丈夫！」と温かいお言葉をくださったので、少し気持ちが楽になりました。毎回、精一杯教材研究、授業準備をしていたつもりでしたが、実際に授業をしてみると、予想していなかった答えが出てきたり、時間配分が変わったりと、自分の考えていた指導案通りに進めることは難しかったです。しかし、焦ってポイントがずれてはいけないと思い、落ち着いて対応することを心がけていると、先生方から「落ち着いているね！」「堂々としているね！」と声をかけていただくことが多く、嬉しく思いました。想像をはるかに上回る答えがたくさん出てくるところにも子どもの力の偉大さを感じました。授業をさせていただく度に課題がたくさん見えてきて、「難しいな……」と悩んでしまったこともあります。しかし、多くの先生方からアドバイスをいただいたり、自分自身でも課題に気付いたり、子どもたちの考えに触れたりすることで、実際に子どもたちの前で授業しなければわからなかったことにたくさん気付けたので、本当に有り難く感じています。これからもっともっと勉強して、良い授業ができるようになりたいです。今回の実習で、課題が多く見つかる中、「一人ひとりと心から向き合っていました。」「声に表情がついてきました。」など、先生方から褒めていただけたこともたくさんあり、子どもたちからは「赤松先生の授業好き！」「先生の授業が楽しみやった！」「先生の授業やから頑張って発表してん！」など、嬉しい言葉をもらって、本当にやりがいがあったと感ずることができました。当然、満足のいく、十分な授業ができたとは思っていません。しかし、先生方や子どもたちからの言葉で、励まされたこと、自信に繋がったことがあるので、それは大切にし、どんどん伸ばしていきたいと思いました。

実習最終日、クラスの子子どもたちが「また来てね会」を開いてくれました。クイズやゲーム、手品…どれもその子たちらしい形で披露してくれて、とても嬉しかったです。手作りのプレゼントや、一人ひ

とりからの手紙には本当に驚きました。最後に、私が子どもたちに向けて書いてきた手紙を読みました。すると、子どもたちがとても寂しそうにしてくれて、やんちゃだった子の目からも涙が出てきました。私はモットーだった笑顔を貫こうとしましたが、涙を堪えるのがやっとでした。

私は神出小学校に行かせていただけて、そしてそこ子どもたちに出会えて、本当に幸せだったと心から思っています。今回の意義深い実習を、また先生方や子どもたちとの貴重な思い出を自身の宝物にして、質の高い教師になれるよう、精進したいです！



## 教育実習で学んだこと

教育学科 3回生  
菅 瑞 希

母校の小学校での四週間の教育実習は、毎日が充実してあつという間に過ぎていきました。実習中は、毎日目標を立てて全力で取り組むこと、実習校の校訓である「まごころ」を忘れずに子どもと接することを特に意識して臨みました。この実習で得た学びを、二点述べます。

一つ目は、子どもが興味を持って授業に臨める工夫をすることの大切さです。私が担当した学級の多くの子ども達が、国語や算数を始めとする学習に対して苦手意識を持っていました。授業実践を通して、多くの気付きや習得があったと同時に、たくさん反省もしました。その中でも、特に授業内容を「教える」というのはただ知識を伝達するのではなく、子どもが自ら学習をするように導くことだということを痛感しました。子ども達は自分自身を映す鏡のようで楽しい授業には食いつき、真剣に取り組むことができますが、少しでも分からない、つまらないと感じると、学習への意欲が激減していました。そのため、子ども達を引き付ける授業を行うことを第一に考え、興味をひく授業の導入や、内容を理解しやすい発言、発問を心掛け、ワークシートや板書も子ども達にとって楽しみながら学習に取り組めるものとなるように根気強く工夫を重ねました。また、校長先生の「先生方の良いところをマネするのは大切だけど、それ以上にあなたらしく子ども達と接することの方が大切だ」という言葉が私の支えとなり、どうやったら学級の全員に学びのある授業をすることができるかを意識しながら、自分らしさと自信を持って授業をすることができました。今後も、子どもが自ら「勉強したい」と思えるような授業を追求することが私の課題です。

二つ目は、子どもとの向き合い方です。私は目の前にいる子どもだけでなく、全体を見て、今どんなことが起こっているかを知る広い視野を持つよう心掛けるようにしました。授業中に私語をしたり、学習に集中していなかったりする子どもや、ルールを破ってしまった子どもを叱って自分の行動を反省させる直接的な言葉掛けはとても重要な一方で、それらが出来ている子どもを称揚し、出来てない子どもが自分自身で気付き、考え、行動する、きっかけを与える間接的な言葉掛けも忘れてはいけません。そして、これらの言葉掛けは、子ども達の良さや成長、小さな気持ちの変化を認め、理解した上に成り立つものであると感じました。さらに教師として、時にはその子の葛藤を少し離れた所から見守ることも必要だと気付きました。

また、小学生の頃に私自身も所属していたオーケストラ部の練習に参加させていただき、当時を思い出して、楽しい時間を共有することが出来ました。勉強を教えるだけではなく、休み時間に一緒に運動場で遊んで共に汗をかくこと、一緒に図書館で本を読むことはもちろん、オーケストラで一つの曲を仕上げていくことなど、子ども達と一緒に何かに取り組むことで教師は子どもと心が通い合い、信頼関係を築くことができるのだと気付くことができました。

四週間の実習を終えて、私の中にあるのは「教師になりたい」という強い思いです。この貴重な実習でもらった子ども達の笑顔と熱い眼差しを胸に刻み、必ず教壇に立てるように自分を磨いていきたいと思います。

## 教育実習を終えて

教育学科 3回生

野 村 里 菜

四週間の実習は色々なものがギュッと詰まった、とても生き生きとした時間でした。

私は、一日目に校長先生が話してくださった四点のことを意識して実習を行いました。

一点目は「教師も常に子どもと同じ世界にいる」ということです。「子どもが一番良い教科書だ。できるだけたくさん遊んで、できるだけ長い時間一緒にいなさい」と言われました。その言葉通りに子ども達とたくさん遊びました。教室にいる時だけでなく、様々な場で子ども同士の関係性やたくさんの表情を知ることができました。

二点目は「子どもに言いたいことよりも、子どもが言われたいことを言うこと」です。「私たち教師は、まず一方的に叱ってしまいがち。子ども達に、今言われたいことを言うと言われたいよ」と言われました。子ども達はどんなことを言ってほしいのか、常に子ども達に目を向けて、気付いたことはすぐに言うようにしました。一つ褒めることによって、子ども達は笑顔になり、ぐんとやる気も出てきました。私にとって難しかったことは、叱るということです。担任の先生が叱ると、空気がピリッと引き締まるのですが、私が叱ってもそう上手くはいきません。初めは「いつも一緒に遊ぶ先生」のままで叱っていましたが、このままではダメだと思い、ダメなことはダメだとはっきり伝え、怒っていることを顔や雰囲気を出すようにしました。段々と子ども達に伝わったようでしたが、やはり担任の先生のようにはいかず、まだまだだなと痛感しました。

三点目は「授業中の気のそれは教師のせい」だということです。「なぜ子ども達は手遊びを始めたのか。叱って黙っても子ども達は納得していない。手本は自分。まず自分に悪い所はなかったか、自分が子ども達を惹きつけられていないのでは、と考えること。」と言われました。研究授業の際にも、常にこれと考えながら授業を行いました。実際に授業をしてみて、「子ども達に分かってもらえる授業」をすることの大変さを感じました。子ども達の目線になれておらず、「こうした方がもっと伝わるかも、分かりやすいかも」という先生のアドバイスに多くのことを気付かされました。授業中に私が失敗しても、「先生、大丈夫だよ」「ちゃんとできているよ」、授業が終わると、「先生、今日は頑張ったね」「とっても良かったよ」と声をかけてくれる子もいて、日を追うごとに子ども達と関係を築けていくことを感じました。

四点目は、「ポジティブ思考である」ということです。「なんとかなる、なんとかする、といつも明るくいること。そうすれば子ども達にも明るさが伝わるよ。」と言われました。実際に小学校の明るさに比例して、職員室にはいつも笑い声が溢れていました。先生方、一人ひとりが優しく声をかけてくださり、色々なことを教えてくれました。

毎日子ども達と過ごすことで得られる喜び、楽しみ、新しい発見が実習前の不安や実習中の苦労や大変さを吹き飛ばしてくれました。子ども達の言葉に一喜一憂しながらも、一人ひとりと真剣に向き合うことの大切さ、繋がることの喜びを学べた実習でした。ある日、一人の子どもが言った、「先生、今日ぼく、



運がないよ。それでも幸せながよ。」という言葉聞いて、何とも言えない気持ちが胸いっぱいになり、子どもってすごいなと感じさせられました。毎日子ども達のことを考えながら、悩みながら過ごした四週間は大変な日々でしたが、それと同時に夢のような日々でもありました。この実習で分かった、自分に足りないものをこれからの課題にして向き合って頑張っていきます。たくさんの思いを与えてくれ、応援してくれた子ども達の期待に沿えるような教師になりたいです。



## 教育実習を終えて

教育学科 3回生

光 田 恭 子

この4週間、教育実習でしか出来ない経験をさせて頂き、多くのことを学ばせて頂きました。

そのうち、授業をさせて頂く中で学んだことは大きく分けて5つあります。1つ目は板書をしている時間は児童の考えが深まる時間でもあるが飽きる時間でもあるということ、2つ目は授業者が教えたいポイントをしっかりと頭に入れておくことの大切さ、3つ目は心にゆとりを持つことの大切さ、4つ目は児童の意見を聞くときの反応の仕方、5つ目は音読で動作化を取り入れる際はなりきるための教具を用意すると良いということです。この中でも特に印象深かった4つ目と5つ目の項目について述べたいと思います。

まずは、児童の意見を聞くときの反応の仕方についてです。相づちだけではいけないような気がして全て復唱していましたが、先生に全てを復唱することは良くないということを教えて頂きました。復唱のメリットとしては、発表者本人にとって確認になったり認められた気持ちになれたりすることがありますが、デメリットとしては、本人が自分で意見をまとめて話さなくてもいいような気になってしまったり、周りが友だちの意見を集中して聞かなくても後で聞けるという気になってしまったりすることがあります。自信がなさそうな児童には復唱が必要ですが、そうでない児童には「なるほど!」と相づちをうつなど、児童の発表の仕方や様子に応じて反応することが大切なのだと思いました。

次に、音読で動作化を取り入れる際はなりきるための教具を用意すると良いということについてです。初めて動作化を取り入れた授業では、自分たちで考えて動作をつけられる児童が少なかったのですが、椅子を使っていた班があったことを紹介したり、教室の窓やお面を使わせることによって、いきいきとなりきるようになったり、ほかの場面でも立ったりしゃがんだりなど動きに変化が見られるようになったりしました。また、窓を使った動作化ではやりたい児童が多すぎて当てきれずに終わってしまったのですが、先生から「目の前に自分たちで窓を作らせて全員が出来るようにしても面白いよ。」とアドバイスを頂き、次の時間に実践しました。全員がいきいきとなりきることができ、やりたいという意欲も満たすことができたので良かったです。特に低学年の児童は、なりきるために実物や実物に近いものを準備することでやる気を引き出せたり、表現の幅を広げられたりするのだと感じました。また、動作化の上手な児童の中には表情もなりきれている児童がいたので、授業者は様々なところに注目して気付き、児童たちが気付けるようにするための支援をしていくことも大切であると感じました。

授業をさせて頂き学んだこと以外にも、授業を見させて頂く中では主に指示すること、褒めること、待つことについて、音楽会練習を見させて頂く中では指揮の工夫について、校外学習では見守ることや下見をすることの大切さについて学びました。

このように私にとって新しい発見や学びの多い教育実習となりましたが、研究授業は自分の中で納得のいくものにはできず、私には向いていないのではないかと心が折れそうになったこともありました。そんなとき、ある先生の言葉に本当に救われました。

温かい先生方との出会いや子どもたち一人ひとりに心から感謝の気持ちで一杯です。

この貴重な経験や素晴らしい出会いを糧に、日々精進していきたいと思います。

## 幼稚園実習を終えて

教育学科 4回生

河村 由記子

私は大学附属の幼稚園で、2週間に1度、1年間を通じて教育実習をさせていただきました。実習生は各クラス3～5名に分かれ、私は3歳児クラスの担当をさせていただきました。実習を通しての学びを4点について述べたいと思います。

第1点目は、子どもが安心して、のびのびと過ごせるように、子どもたちと信頼関係を築くことです。入園した当初、子どもたちの不安の表れもあり、泣いて登園している子や、緊張している子の姿が見られました。子どもが安心できるように、保育者が笑顔でいることはもちろんですが、手を繋ぐなどのからだのふれあいを通したスキンシップや、一緒に遊ぶ中で気持ちを共有することで、子どもたちと関係を築いていくことに繋がるのだと学びました。また、実習に行くたびごとに、子どもが友だちの名前を呼んだり、手を繋いだり、一緒に遊ぶなど、人間関係の広がりが見られました。保育者に安心して、信頼関係を築くことで、子どもは生き活きと生活することに繋がっていくと思います。そのために、このことを大切にしていきたいと思います。

第2点目は、見守ることの大切さです。入園した当初は、着替えやそれ以外の場面でも、子ども一人ではなかなか出来ず、どこまで援助してよいのか迷うことが多くありました。しかし実習も残り少ない頃、ある男児が「先生みて！ぼく、ボタン全部留められるようになったよ！」と生き活きた表情で、私に見せてくれました。その時子どもの成長を感じたとともに、子どもの嬉しそうな表情をみて、私自身嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

そして子どもが何かを経験したり挑戦したりする時に保育者が全て手を出すのではなく、保育者は子どもの学びを考えて援助していくこと、子どもを見守ることの大切さ改めて実感しました。

第3点目は、子どもにどんな気持ちや態度が育ってほしいのか、子どもの学びに繋がるのかを保育者が常に考えて関わることです。こう思うきっかけとなったことは、子どもたちのけんかの場面での保育者の言葉かけです。保育者が子どもそれぞれの気持ちを受け止めたり、子どもの気持ちを代弁したりされていました。そして、「お友だちはどんな気持ちだったと思う？」「どうすればよかったかな？」など、友だちの気持ちに気付いたり、どう解決していくかを子どもたちが考えたり、経験できるようにされていました。この事をきっかけに、子どもとかかわる上で、また保育をする上で、この姿勢を大切にしていきたいと思います。

第4点目は、保育者（実習生）のチームワークの大切さです。実習では、歌唱指導・絵本の読み聞かせ・制作あそびなどの部分実習や全日実習など、子どもの前に立って保育をする機会を多く設けて頂きました。指導案をたてていく際に、『子どもの姿』、『保育を通して学んでほしいこと・感じてほしいこと』、『子どもそれぞれにどんな援助が必要か』など、実習生で何度も話し合いをして教材研究を重ねていきました。グループで行うことで、自分とは違う観点からとらえることができたり保育を工夫したり、お互いに切磋琢磨しあえることができ、とても勉強になりました。

この1年間の幼稚園実習は、保育者として大きく成長させて頂いた1年となりました。また、この1年の経験と思い出は、私の中でかけがえのない財産です。

私は4月から保育士として働くことが決まり、今は期待と不安でいっぱいです。しかし、子どもたちから学んだこと・先生方から教わったこと・学生同士で学んだこと・大学で学んだこと、今までの学びを胸に、子ども一人ひとりと真摯に向き合える保育者になりたいと思います。

そして最後に、たくさんのことを教えてくれた子どもたち、お忙しい中丁寧な指導を下さった先生方、本当にありがとうございました。





## 教育実習を通して

教育学科 4回生

田中 瑤子

私は、1年間5歳児クラスで実習させていただきました。1年間を通しての実習なので、短期間でなく、長期的に子ども達の成長を実感することができました。また、年間を通してだからこそ、学んだこともたくさんあります。実習で学んだこと、感じたことの中で、最も印象に残っている出来事をまとめていきたいと思います。

まず、1つ目は、子どもたちの成長についてです。4月は、年長児となった喜びや期待をもち、何でもやってみようとする意識がみられる子ども、緊張感や不安感をもつ子どもなどが見られました。そのような子どもたちが、日々の保育、運動会や音楽会などの行事、様々な活動を通して、さらに積極的に意欲的に行動し、自分のことは自分ですという意識も高まり、問題が起こっても自分たちで解決しようという姿がみられるようになりました。また、年少、年中児に対して優しくしよう、お世話をしようという姿が日々の生活の中でたくさん見られました。そんな子ども達の成長を近くで感じることができた喜びは、私にとってとても幸せであり、自分自身の成長へと繋がったのではないかと思います。

2つ目は、子どもの気持ちに寄り添い共感共有する大切さについてです。これは、保育者として基本的なことであり、難しいことでもあるのではないかと思います。私が実習させていただいたクラスは、個性豊かで、とても元気な子ども達でした。最初は、落ち着きがないなとさえ思い、活動の話し合いなどをする際、どのようにまとめていけばよいのか戸惑いました。しかし、担任の先生は、常に子ども達の気持ちに寄り添い、子ども達と一緒に盛上がり、気持ちをうまくコントロールし、一人ひとりに合った対応や、クラスの特徴に合ったまとめ方などを考えて、保育されていました。子ども達を理解し、気持ちに寄り添うことの大切さを改めて感じました。そして、先生の保育から学ばせていただき、だんだんと子ども達とまとまりのある話し合いができたり、遊びを通して一緒に楽しい時間を過ごせたりし、信頼関係を築けていったのではないかと思います。何かを発見したときできたときの喜び、一緒に遊ぶなかで思い切り楽しさを共有できたからこそ、その気持ちが返っていったのではないかと考えます。生活しながら楽しんでいこうとする気持ちを忘れてはいけなと感じました。

保育者という職業は、子どもにとって大きな影響力となります。実際に園で生活させていただく度に、想像以上に大変な仕事であることを実感します。しかし、それと同時に、とてもやりがいのある素晴らしい仕事であると感じました。子どもの心もちを大切に、実感できる保育者になりたいと思います。今回学んだことを大切に、また、多くの出会いと経験に感謝し、常に成長し続けたいです。

## 教育実習を終えて

家政学科 4回生

安西歩美

私は、この教育実習で本当に多くのことを学びました。まず、先生方の生徒に対する愛情です。家庭科の実習でも生徒によりわかりやすいように説明されていたり、難しいところは、特に力を入れて説明されていました。生徒に考えさせるための工夫など教えるという立場に立つことで理解できることが多かったです。これは、他教科を見学させていただいた時も感じました。生徒の為の細かい配慮がいくつもあり、改めて先生方を尊敬しました。また、授業だけでなく、生徒指導でも生徒と向き合って話をされていたり、休んだ生徒を気にかけていたりしていました。それが当たり前のことなのですが、こんなにも考えて教えてくれたり、怒ってくれていたのだと知ることができ、私も生徒の為に何でもできる教師になりたいと思いました。私に対しても、声をかけてくださる先生が多く、心強く居心地がよかったです。職員室の人間関係の良さも重要だと教わりました。

次に、先生方と生徒との人間関係です。生徒の表情や態度などで生徒の気持ちを読み取ったり、性格がわかるようになると聞きました。他の先生方との情報交換などもして、生徒を理解しようとしていることから、生徒も信頼するのだらうと思いました。教師は生徒にとって身近な大人であるので、私も生徒の様子を見て気付いてあげられるようになりたいと思いました。

教師として教えるということの責任感も学びました。私は、製作実習に多く入らせていただきました。なかなか生徒から質問してくることはなく、先生に聞きに行く生徒がほとんどでしたが、主で実習をすると次から聞いてくれるようになりました。認められたような気がして嬉しかったのですが、間違えて教えてしまったことがありました。そのことで生徒のやる気をなくしてしまう可能性があるので、教えることは本当に知識と技術と経験が必要であると感じました。また、他の教育実習生の電気機械の研究授業は習ったことのない内容だったため、生徒のように見学していました。この時、教育実習生が教師に見え、生徒にとって授業を行う人は教師であるという認識があるのだと気付きました。教壇に立ち、新しい知識を教えるという責任の重さを強く感じました。

感じること、思うこと、気付くことが多くあり、今まで教えてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。授業は4単元を2回ずつさせていただき、教壇に立つことに慣れていきました。自分が理解しているからという基準で授業を展開してしまうことで、計画通りには進まず、反省点もありました。その度に、先生に相談しアドバイスしていただきました。授業は本当に何が起こるかわからないので知識不足を痛感しました。もっと勉強して、経験を積み、柔軟に対応できる教師になりたいと思いました。

私が体験したことは、教師の仕事のほんの一部です。そう考えると本当に大変な仕事だと思いますが、先生方の楽しそうな姿を見て、改めて教師になりたいと思いました。生徒に「授業楽しかった」「おもしろかった」と言ってもらい、すごく嬉しかったです。多くの先生や生徒に助けていただき、絶対に頑張ろうと思えました。貴重な3週間でした。

## 栄養教育実習を終えて

管理栄養士養成課程 4回生

伊藤 雅 恵

私は教育実習として母校の小学校で、2年1組に席を置かせて頂き、そのクラスで授業観察や授業実践をさせて頂きました。栄養教諭の業務内容としては、調理場（給食室）の見学や給食の残食調査などもさせて頂きました。また、一週間の実習の中で2回授業を実施しました。

私はこの教育実習を通して、授業の大切さや授業をすることの難しさ、児童とのコミュニケーションの取り方、教職員の姿勢など多くのことを学びました。配属されたクラスは、とても元気の良いクラスで活発な児童が多くいました。はじめに教員の授業の進め方や声かけについてです。担任の先生が行っておられた授業では先生の声かけでクラスのほぼ全員の児童が積極的に発言をして授業に参加していました。一方私が行った授業では、児童の発言をうまく取り上げたり、関連させたりがなかなか上手くできず、クラス全体の活発な雰囲気での授業を行うことが難しかったです。授業観察や授業実践を通して、教員の発問はいかに大切であるかを実感させられました。そして、それが児童の興味・関心に大きく影響し、学習への意欲に繋がっていくと思うので、教員の行う授業が児童の学力や学習に大きな影響を及ぼすと感じました。

次に児童との関わりについてです。私はこの教育実習に臨むにあたって、自分から積極的に児童に関わっていくことで、児童との信頼関係をより深く築いていきたいという目標がありました。その理由は、良い授業にするためには児童との信頼関係が重要だと考えたからです。そして、その目標の達成度としてはほぼ満足のいくものとなったと思います。やはり、児童との関係は、授業の雰囲気や児童の意欲など、行う授業に大きく影響すると感じました。

教職員の先生方の姿勢については、職員室の空気がとても明るく、先生方が児童のために毎日前向きに頑張っておられる姿が常にある素敵な環境でした。

最後に栄養教諭についてです。私の実習先の小学校では学校栄養職員の先生でしたが、経験も豊富な先生だったので、様々な角度から見た視点でお話を聞かせて頂くことができました。栄養教諭というのは、学校に一人しかいないのでその教員によってやり方は色々だと強く思いました。積極的に食育を盛り込んだ給食や給食指導を行い、担任の教員との連携をとって、学級活動などの時間に食育指導を行うなど積極的に食育に力を入れている学校や栄養教諭がいると児童は食育を学ぶ機会が多いと思います。そういった環境を作るにはまずは、職員の先生方や、調理員の方との関係が良好であることが重要であると思います。そういった点からも栄養教諭にはコミュニケーション能力が最も重要であり、必要不可欠であると感じました。

教育実習全体を通して、専門知識は、ただ理解しているだけでなく、相手に応じて、適切にわかりやすく伝えることができるかが大切だと実感しました。一週間という短い期間でしたが、実習校の先生方のご指導のおかげで、本当に多くの貴重な経験をさせて頂くことができました。この教育実習で学んだことを今後に活かしていきたいと思います。

## 教育実習を終えて

健康福祉学科 4回生

片山 千佳子

私は、母校の高校にて2週間という長いようで短い期間のなか、普段の大学生活では経験することのできない貴重な体験をたくさんさせていただきました。

実際に生徒の前で授業をさせていただき、生徒の反応を見ながら授業を進めていく重要性を感じました。私は大学で模擬授業を行う際には、指導案を見ながら授業時間内に内容を終わらせることばかりに気をとられていたようで、ただ伝えるだけの授業になっていました。そのような一方的な授業ではなく、生徒が理解することによって授業は成り立つものであり、生徒の様子に配慮して何を学んでいるのかを理解させることの大切さを学びました。生徒に合わせた授業を展開させるために、指導案の流れを頭に入れて、生徒に明確に伝わるような指導案の立案や授業の進め方、言葉掛けの工夫が課題であると実感しました。また、授業の準備をしっかりと行うことにより、落ち着いて心に余裕も持って授業を進めることができ、生徒に私語をさせる隙を与えない充実した授業ができることを学びました。

そして、生徒との関わりについては、なかなか生徒とゆっくり向き合う時間がなく、私自身、生徒との距離を感じていました。しかし、実習が進んでいくにつれて、合唱コンクールの練習や文化祭の準備で生徒と関わることも増えていき、積極的に生徒とのコミュニケーションを図ることを心掛けました。2週間という限られた時間のなかでは難しかったのですが、生徒一人ひとりに関わりを持ってこそ、どんな生徒であるか、どんな関わり方が良いのだろうか少しずつ見えてきました。そして、改めて生徒一人ひとりと向き合うことの大切さを実感しました。

私にとって、はじめの1週間は慣れない授業、生徒や先生方とのコミュニケーションが手探り状態であり、時間に追われる毎日は想像以上に苦しいものでした。この実習を通して、教師に対する憧れだけでなく、実際に現場で経験をすることにより教師としての困難や苦悩を知ることができました。その反面、生徒の掛けてくれる言葉や笑顔から、やりがいや喜びも感じることができ、私にとって学び多き実習となりました。

また、未熟でおぼつかない授業であっても、一生懸命に聞いてくれた生徒や私たち実習生を支え、温かくご指導して下さった先生方、苦しいことや嬉しいことを共にわかち合い、支え合った実習生の仲間たち等、たくさんの方々に支えていただいたからこそ実習を無事に終えることができたと思います。私にとって、感謝の気持ちでいっぱいの充実した教育実習となり、この実習で得た経験や課題は大きな財産であると思うので、今後の人生において活かしていきたいです。



# 観察実習レポート I

教育学科 2 回生

小 島 優 依

## 1. スクールサポーターとして得たもの

### ① 児童との関わりから得たもの

子どもたちと関わる楽しさと難しさを学ぶ事が出来ました。子どもたちは日々成長していて、その成長の様子を1年間を通して見る事が出来てすごく良かったです。特に音楽会の練習を真剣に取り組み、どんどん上手になっていく姿には感動しました。また、子どもたちの些細なケンカや何かができない苦しみを解決すると言った関わり方が難しく、これからの課題でもあるという事を学ぶ事が出来ました。

### ② 教師との関わりから得たもの

たくさんの先生方と関わる中で、教師に必要な物を多く学びました。特に視野が広く、気配りができ、先を見通す力をもっと必要だという事を、現場の先生方を見て学びました。また先生方の子どもたちの叱り方、教え方、教室環境の作り方、声かけの仕方など、教育現場に必要な実践的な活動を学ぶ事が出来ました。

### ③ 学校という組織との関わりから学んだこと

学校という組織は1つのチームだという事を学びました。多くの先生方が子どもたちの安全や幸せのために協力しているという事がすごくよくわかりました。登下校の際に、先生方が交代で道路に立ったり、地域の見回りに行かれていたり、給食室の整頓のお手伝いを行ったりなど、自分が児童の頃には分からなかった、強い協力体制を見る事が出来ました。

## 2. サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていること

音楽会がとても印象に残っています。子どもたちは音楽会で素晴らしい演奏をするという目標に向かって、朝早く来て練習してみたり、休み時間に練習する子もいました。そんな子どもたちの一生懸命な姿に心打たれました。また、全体練習では、初めは全くと言っていいほど息がそろわず、ばらばらな楽器演奏であったり、大きく歌おうとして怒鳴ったような歌声でしたが、練習を重ねていくうちに少しずつ楽器の演奏がそろそろようになり、歌声も響き渡るようになっていきました。2年生と言う事もあり、私はここまでの事ができるようになるとは思っていなかったので、子どもたちの成長の姿にすごく感動しました。また子どもたちの計り知れない可能性を感じた気がしました。

## 3. 特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞り、小学校で学んだこと

私は特に学級経営についての学びが大きかったです。先生によって学級経営の仕方が様々で、たくさんの環境づくりの方法を学びました。まず、ほとんどのクラスで見受けられたのが、朝と帰りの会の進行表です。これがある事で、子どもたちは先生がいなくても自分たちで会を進行する事ができ、子どもたちの自立性を促しているようでした。また特に印象的だったのは、毎日当番という一人一つずつ、毎日行う当番制度でした。これは毎日クラスの人のために役立つ活動をするという、責任を与

える事で、子どもたちに任務の達成や責任感を持たせる、素晴らしい活動だと思いました。

以上のような具体的な学級経営は大学ではあまり学べていなかった事だったので、すごく参考になりました。私が学級経営をする立場になった時は、これらの活動を参考にさせていただきたいなと思いました。

4. スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題・改善点・アドバイス。

前期はスクールサポーターの後に授業があり、スクールサポーター先が舞子だった事もあり、少し慌ただしい気もしましたが、それほど気になる問題ではありませんでした。

小学校によってその学校特有のルールのようなものがあり、それを把握するのが難しく、初めてのスクールサポーターという事もあり、難しかったように思います。前年度その学校を訪問していた方の活動記録を事前に読ませてくれる機会などがあれば、もっとスムーズに活動に入れるのではないかと感じました。

5. 2・3回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？またその理由を記述してください。4回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？またその理由を記述してください。

来年もスクールサポーターに応募したいです。今回のスクールサポーターで、自分の未熟さや、経験不足を実感しました。経験だけでどうにかなるというわけでもないかもしれませんが、今の状況で現場に立ったとしても、今の私では何もできないと感じました。だからこそ、少しでも多く現場を知り、子どもたちとの関わりの中で、子どもとの一番良い接し方を見つけ、先生方との関わりの中で、自分がどんなふう子どもたちと関わっていけばいいかを学んでいき、今よりもっともっと成長し、現場に出た時に少しでも気持ちに余裕ができるようにしておきたいと思うからです。

6. 将来教師になったとき、このスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に活かしますか？

学級経営に関して、効果的かつ子どもたちの成長に繋がるような学級経営ができるよう、先生方の環境づくりの方法の良い所を学び、活かしたいなと思っています。また授業の進め方においても、先生方の子どもたちの学習意欲を高める上手な声かけの仕方や、困っている児童への対応の方法、叱り方、注意の仕方など、吸収したものを私も実践できるように、現場で活かしたいなと考えています。

また、先生方は子どもたちの知らないところで、たくさんの活動を行っているのだということを知りました。私も子どもたちのためになる活動を、学校組織の一員として働きたいと思います。

7. その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。

スクールサポーターは1年を通した活動であるため、すごく得た物が大きかったように思います。子どもたちのサポートだけでなく、学級経営に関する活動にも携わらせていただいたり、休み時間や給食、掃除時間など、大学の座学では学ぶ事の出来なかつたりアルな現場を見る事ができ、大学で学んだ事を活かす場所になったり、大学で学んだ事に付けたすような形になったりと学びが今までよりも深くなったように感じました。このような機会を与えてくださって本当にありがたく思います。

また、こんな未熟な私をスクールサポーターとして受け入れてくださった、舞子小学校の先生方や児童の皆さんに感謝してもしきれないぐらいです。ありがとうございました。

# 観察実習レポートⅡ

教育学科 4回生

宮 永 真 弓

## 1. スクールサポーターとして得たもの

### ① 児童との関わりから得たもの

今年度は一年間を通じて6年生に入らせていただきました。思春期に入りなかなか自分のことを話してくれない児童がいたり、授業が難しくなりついていけない児童がいたりと高学年は高学年なりに難しい課題がありました。しかし児童一人ひとりにあった対応をすれば、授業も真剣に取り組むことがわかり勉強になりました。例えば、少人数授業をしたりTT制を取り入れたりです。放課後に1対1で教えることもさせていただきました。1対1だからこそその子の不得意や躓いた箇所がわかります。やり終えた後の児童のわかった！という表情が今でも鮮明に思い出します。授業は教師にとって命であると言われてますが、児童との関わりの中かで一回一回の授業が勝負なのだというのをより強く感じました。

### ② 教師との関わりから得たもの

活動中に、社会科見学の引率や音楽会・運動会の補助、参観日など普段の授業だけでなく、様々な場面に携わらせていただきました。その中で教師の動きや児童に対する言葉掛けをたくさん見ることができました。また授業では同じ単元でも教師によって進め方や指導方法が、それぞれ異なるのを見ていて楽しいです。また「この教材はこのようなねらいでしたよ。」と教えていただき勉強になることがたくさんあり、教師になった時に実践したいと思うことが多かったです。

### ③ 学校という組織との関わりから学んだこと

今年度から算数で少人数授業が始まりました。今まで担任教師がしていた授業を算数担当の先生や教頭先生など他の先生と協力しながら進めていく授業を見ました。授業は必ずしも一人の先生がするのではないということがわかりました。一人の教師のやり方だけでなく他者の面から支援していくことで学校全体が協力して良い環境の学校づくりができるのではないかと感じました。

## 2. サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていること

私が一番印象に残っているのは6年生にとって最後の音楽会です。歌唱で英語の歌に決まり、初めは戸惑った児童や恥ずかしがってあまり声を出さない女子児童が多かったのですが、練習を重ねるごとに声も大きくなり、児童の顔がいきいきしてきました。また今回こそは何かの楽器をしたい！と思う児童が多く夏休み前から練習し、学校が始まってからも昼休みや放課後に練習してきました。練習中も「ここはどうやって弾くの?」「ここまで弾くから聞いて」など自ら進んで頑張る児童もいました。普段の授業だけでなく音楽会などの学校行事で輝く児童がたくさんいるのだなと感じました。児童の頑張りを認め、そして厳しい先生の熱心な指導が児童の成長に繋がっていくのだと思いました。音楽会の練習に対する姿勢を見てさすが6年生だなと感じました。児童音楽会と本番を見て、頑張ってきた児童の歌声・演奏が心に響いてとても感動しました。

### 3. 特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞り、小学校で学んだこと

入らせていただいた学級に特別な支援を必要としている児童が在籍していたのですが、周りの児童はその子を特別な目で見ないで、学級の一員として接する姿を見ました。その子自身にも学級での仕事がちんとあり、自分の出来ることは自分でします。初めて会った時は、ありがとうやごめんなど自分の思いを相手に伝えることが出来なかった児童も徐々に心を開いてくれるようになりました。また困ったことがあれば周りの児童が手を差し伸べるなど、みんなで学級を盛り上げる、児童を中心に学級がまとまっていく様子を一年間通して感じる事ができました。

### 4. スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題・改善点・アドバイス。

4回生にとって教員採用試験は重要で活動を休まなければならなかったのは残念でした。小学校側としては、継続して来てくれる学生を求めています。しかし、休みをもらってでも後期からでなく、前期から活動していて良かったと思っています。なぜなら、活動で経験したことや課題が教員採用試験の面接に役立ったからです。

### 5. 2・3回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？またその理由を記述してください。4回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？またその理由を記述してください。

私は下級生にスクールサポーターを勧めます。スクールサポーターでは、多くの先生方の指導法を見ることが出来る、それが一番大きな利点だと思います。実習に行っていない学生は特に、実習前のステップにもなるし、子どもたちとの接し方がわかってきます。一年目の3回生のときは、子どもたちと仲良くできたらいいかなという思いが4回生になった今では社会人になる一歩手前であり、先生方の良いところをいっぱい見よう、自分だったらこういう時どうするかな？など自分に置き換えて考えることが出来ました。これは、2年間継続してやってきたからだだと思います。

### 6. 将来教師になったとき、このスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に活かしますか？

自分一人で考える授業より班で考える授業を活動中たくさん見ました。また発表は前に出て自分の思いを自分の言葉で相手に伝えます。そうした活動を通してわからなかった児童もわかるようになったり、うまく伝えることができるようになったりと思うので、将来ぜひ取り入れたいと思います。またわからない児童がいた時、教えたり話し合ったりする姿を見て、子ども同士自分の言葉で教え合うことはとても大切なことだと思ったので、積極的に教え合い学ぶということを大切にしていきたいと思います。

### 7. その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。

2年間同じ児童を見てきて、児童の成長を身をもって感じました。朝が早く大変な時がありましたが先生が教えてくれたから分かるようになったよ！と言われたとき本当に幸せな気持ちになりました。元気な子どもたちに会えるから頑張ろうと思えた日々でした。先生方にも優しく接していただき、勉強になることが多々ありました。児童・教師・家庭の連携が大切であり、その繋がりを密にしていくことで、良い学校経営や学級経営になっていくのだなと感じました。大学生活の中で、スクールサポーターという制度があり、教育現場を見る事ができて本当に良かったです。



# 観察実習レポートⅢ

教育学科 4回生

松田 亜美

## 1. スクールサポーターとして得たもの

### ① 児童との関わりから得たもの

児童との関わりの中では多くのことを得たが、その中でも「自ら関わり続けること」が一番である。自ら関わることで児童たちは自分に興味を示してくれていると感じ、児童達からも関わりを持ってくれる。ただ関わるだけでなく、「名前を呼ぶ」「些細な変化にも気付き声をかける」「時に厳しく」の3点を重視したことで、少しずつ私を信用してくれ、信頼関係を深く築くことが出来た。

### ② 教師との関わりから得たもの

教師の関わりからは、授業の中で児童たちと信頼関係を築かなければいけないということだ。教師は雑務が多く休み時間に児童たちと遊ぶ時間がなかなかとれないのが現状である。最も教師と関わる時間はもちろん授業の時間である。その授業で児童たちに「先生なんでも知ってる!」「先生の授業は楽しい」と思ってもらえるような授業展開をすると必然と児童たちは教師に心を開く。すると教師を尊敬する気持ちが芽生える。「先生の話をもっと聞きたい!」「発表したい!認められたい!」このような思いが生まれる。全てが授業で決まるわけではないが、信頼関係を築くために授業での教師のセンスや児童中心主義があれば良好な関係を築き上げることが出来ると思う。

### ③ 学校という組織との関わりから学んだこと

「積極的にかかわる」児童と同じく教師に対しても積極的に関わりを持つよう心掛けた。

教育実習でお世話になった学校ということもあり活動するのは2年目で、先生方とのコミュニケーションは良好でなんでも話せる仲になった。また、学校行事や少年団にも積極的に参加し運動会では2年連続演技係に抜擢され、音楽会では会場係としてお手伝いさせて頂いた。少年団では陸上走り幅跳びをコーチとして指導させて頂き児童達との関わりも深くなったように思える。

## 2. サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていること

最も印象に残っているのは、運動会にかけての追い込み練習です。

暑期中、各学年が一生懸命に演技に取り組み完成度を上げて日々練習をしていました。

そんな中、私は教育実習でお世話になったという事もあり指導に参加させていただいたり指導補助をさせていただいたり教員という立場で児童達に指導しました。なかでも3年生の学年演技の補助に入る事が多かったです。3年生の学年演技はフラッグを用い体全体で表現する演技でした。行進や列やタイミングが揃わなければ成功しないこの演技。私はとにかく声を出し児童達に良いところも悪いところも訴えかけました。すると徐々に演技に迫力が出てきて、心が一つになって来ました。

最終練習の日、多くの児童達が一斉に私のもとに駆け寄ってきてくれました。「どうしたんやろ?」と思った私に児童達は「心は一つ」と声を合わせ私に叫んでくれました。それを聴いて、指導のなか

でなにか児童達に伝わったのかなと感じ、とても嬉しかったです。本番は見事に大成功でした。

### 3. 特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞り、小学校で学んだこと

学級経営について学んだことは、多くありますが特に感じたのは「いかに集団を児童達に意識づけるか」と言うことだ。よく学級目標を書いた張り紙を各教室でみかける。しかし、学級目標を児童達に浸透させることは容易なことではない。意識をさせるには教師の声かけが大切になる。

「みんながハッピーに！」という学級目標のクラスがあった。そのクラスの先生の声かけの徹底ぶりにはいつも驚かされる。ある日、班で給食を食べている時に児童が牛乳をこぼしてしまった。すると2人はすぐにその子にかけより、一緒に後始末を手伝いにいったが1人は何もせず眺めているだけであった。すると先生は「あんたはなんもせんのか！協力ができんかったらみんながハッピーになれへん！」と言った。常々集団を意識させ児童達が活動することで集団活動が身につき成長すると思うので私も今年から集団を意識させるような学級経営を心掛けたい。

### 4. スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題・改善点・アドバイス。

私は、スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題については、自分自身を強く持ち優先順位を持ち活動すれば問題は無いと考える。

### 5. 2・3回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？またその理由を記述してください。4回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？またその理由を記述してください。

下級生にはスクールサポーターを勧めます。しかし、スクールサポーターばかりに力を入れてしまうのは良くないと思う。2回3回生のうちは活動をし、自分の経験値を上げることを勧める。しかし4回生になってからは、教員採用試験の勉強に励んだ方が良いと私は考える。

### 6. 将来教師になったとき、このスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に活かしますか？

スクールサポーターを通じて学んだ「共感的理解」を大切に活動していきたい。

どんなときでも児童中心に物事を考え教師中心の授業にならないようにしたい。

また、相手を認め、理解し、信頼関係を築いていきたい。スクールサポーターの経験は、小学校現場の現状や、教師の授業展開、児童の反応などを間近で感じ取ったり学んだりできた。また、主観的ではなく客観的に物事をみることも出来た。「自分ならこのようにしたい！」「ここは、このようにしたほうがよいのではないか？」など共感したり批判的な考えをもって取り組むことが出来た。

毎回自分なりの課題をみつけて次回に活かすという行動を繰り返し行ってきた。これは、教育活動に携わる上で必要なことだと私は思う。自己理解のうえに他者理解があるので教育活動に活かしていきたいと強く考える。

## インターンシップを通して

教育学科 3回生

杉本千波

私は、幼稚園実習の経験がなく、ボランティアの経験も少なかったため、幼稚園の現場をあまり知りませんでした。私立幼稚園のインターンシップに参加しようと思ったきっかけは、実習に行く前に、幼稚園の現場がどのようなものなのかを知りたいと思ったからです。

インターンシップを通して、私は、学ばせて頂いたことがたくさんあり、自分の課題などを見つけることができました。

まず、私が学んだことは、年少組、年中組、年長組で出来る事や考えている事などが違い、それに合わせて対応しなければいけないということを学びました。今回のインターンシップは3日間で、1日ずつ年少組、年中組、年長組を担当させていただきました。年少組は、朝、保護者の方と離れる時、泣いている子が多く、教室に入ることを嫌がる子もいました。手を繋いであげたり、声をかけてあげたりして、安心させてあげることが大切だと思いました。また、はさみを使う時や、着替えをする時などに、「できない」「やって」という子が多かったです。やってあげるべきか、子どもにやらせるべきなのかという判断は難しかったです。年中組は、敬老の日のプレゼント作りをしました。年中組は、はさみをうまく使うことができている、何でも自分でやろうとしていました。着替えも年少組に比べて早くできていました。自分でできる事が多くなり、何でも自分でやりたい時期なので、手を出さずにはなく、見守ることも大切だということがわかりました。年長組は、他のクラスと一緒に歌を歌ったり、グループごとに行動したりと、他の子と関わる姿が見られました。協力しあったり、自分のことだけではなく、友達のことでも考えて行動できていたり、思いやりの気持ちを持つことができていると思いました。このように、3～5歳児でかなり差があり、色々な違いがあるので、対応も変えていかなければいけないと思いました。

また、自分の課題点として、もっと積極的に子どもと関わらなければいけないということに気づくことができました。担当していただいた先生方全員に言われたことは、もっと積極的にという言葉でした。最初は緊張していたこともあり、自分から、子どもに声をかけたりすることができませんでした。しかし、最終日には、自分から話しかけたり、遊びに入ったりすることができました。すると子どもの方からも「先生、一緒に遊ぼう」と声をかけてくれるようになりました。

私は今回インターンシップに行かせていただいた園に実習に行かせていただくことになっています。インターンシップを通して、園の雰囲気などがわかったし、実習までの課題なども見つけることができました。今回の体験を実習にも活かしていきたいと考えています。